



## contents

- 1 特集鼎談  
“新・郊外居住”と“つくばスタイル”  
木村 誠之 首都圏新都市鉄道株式会社 代表取締役専務  
島袋 典子 つくばインキュベーションラボ 代表取締役  
田中 久幸 独立行政法人都市再生機構 理事
- 7 都市の情景  
深まる都市の年輪  
つくば市 洞峰公園
- 9 特別寄稿  
『つくばエクスプレスタウン』で  
“よりどり・緑・彩り生活”  
西川 りゆうじん 「つくばエクスプレスタウン」PRスーパーバイザー
- 11 つくばスタイルを創造する  
つくばエクスプレスタウン  
パートナーシップのまちづくり 沿線からのメッセージ  
研究学園葛城 / つくば みどりの里 / 柏北部東  
新市街地 / 三郷中央 / 八潮南部中央
- 21 UR TOPICS / 編集後記

# “新・郊外居住”と“つくばスタイル”

つくばエクスプレスタウンがめざすもの

注目の連携プロジェクト  
“鉄道と街を同時につくる”

田中 日本のは街は城下町、門前町、宿場町、あるいは市の立つ町でした。一方で日本の鉄道の歴史は130年ほどになりませんが、多くの鉄道の敷設は既存の市街地を避けました。しかし鉄道の利便性が認識されてくると今までの街の中心が駅の方に移動するという構造的変化がおこりました。鉄道にはそのような力があります。首都圏では、国がつくった鉄道とその間を私鉄が縫うようにでき、戦前にネットワークが形づくられました。戦前には、戦前にネットワークが形づくられましたが、その中で画期的なことは東急の前身である田園都市株式会社が、大正7年、八ワードの田園都市運動をモデルにして田園調布などの街をつくったことです。また、たま売し出し1ヶ月後に関東大震災がおこり、その受け皿になって非常に売れ行きがよくなったようです。この田園都市株式会社が目蒲線、大井町線の沿線開発をすすめますが、これが戦前のニュータウンと鉄道の一体開発の事例ですね。戦後になって、やはり東急電鉄が田園都市線の建設とその沿線5000haを開発しました。今回のつくばエクスプレスもいくつかの点で画期的な事業だと思っています。一つには鉄道過疎地であった沿線の自治体が共同して出資をし、民間がそれを支援、国が後押しするという構図です。これからこの鉄道と一体となった都市づくりの事業が本格化します。ここでこいつしよに街づくりの議論をしたいと思います。

木村 戦後の首都圏の鉄道の役割ですが、まず戦災復興、その後の高度成長の過程で、首都圏に人や物が極端に集積し、その過密のなかで通勤や通学の人をどう運ぶかが緊急の課題となっていていき鉄道整備の構想が練

## 特集 鼎談

ていだん



木村 誠之

首都圏新都市鉄道株式会社代表取締役専務  
1975年 東京大学法学部卒、建設省入省  
住宅・都市整備公団公団企画課長  
北海道警察本部交通部長  
建設省宅地企画室長  
国土庁地価調査課長等を経て  
1996年 建設省大臣官房審議官  
1999年 首都圏新都市鉄道株式会社専務取締役



島袋 典子

つくばインキュベーションラボ代表取締役  
1981年筑波大学第3学群社会学類卒業後、コンサルタント勤務。専業主婦を経て、2001年5月有限会社つくばインキュベーションラボを創業。地域の資源や願いを掘りながら、まちおこし・産業おこし・組織おこし・人おこしに携わる。「売れるつくば」を具現化する(株)プレイスメイキング研究所を設立 活躍中



田中 久幸

独立行政法人都市再生機構 理事  
1969年 東京大学工学部都市工学科卒業  
日本住宅公団 採用  
住宅・都市整備公団 本社都市開発事業部長  
都市基盤整備公団 本社事業企画室長、  
土地有効利用事業本部長を経て理事  
2004年より現職

り直されました。東京の中心部は路面電車が戦後も走っていて、親しまれながら機能していたのですが、車の増加で機能不全になり、鉄道整備は地下鉄へとシフトしました。戦後50年間で鉄道は1000キロ程度整備されたのですが地下鉄のウエイトが高く、地下鉄への相互直通運転も始まり、郊外から私鉄や国鉄が都心に乗り入れてきました。さらに複線化や複々線化もすすめられました。当時の国鉄は東海道、中央、東北、常磐、総武という五方面作戦を展開しましたが、常磐線は大きな川が多くて、コスト的にも技術的にも大変でした。しかし、次第に混雑がひどくなり、一方筑波研究学園都市の整備も進み、科学万博の開催もあって、新線構想が立ち上がってきたのです。ここは市街地に後追いつく鉄道ではないので、先ほどお話しした東急田園都市線や戦前の大阪の阪急神戸線宝塚線の前列もあり、鉄道と街を一体につくっていくということになり、宅鉄法（）ができたのです。当時は地価が高かったため、庶民に住まいの夢を提供するというのも大きな目的になっていましたね。

田中 筑波研究学園都市に鉄道を通すというのには計画当初から想定されていて、いまつくば駅ができていて、学園中央通りの下には地下埋設物が入れないで空けてあったんです。そこに駅がスポッと入ったのです。つくばも30年でよくここまで街になったと思うんですけど、島袋さんの学生時代はいかがでしたか？

島袋 ただの造成地でしたよ。大学の入学許可書を頼りやってきましたが、自分の入学した学群の建物はまだなくて他の学群棟に間借でした。今卒業生たちが集まると